



第四中だより

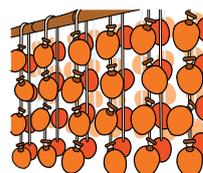
足立区立第四中学校

校長 五明 早苗

可能性は無限 ～努力が広げる未来～

校長 五明 早苗

2018年に本庶^{ほんじょ} 佑^{たすく}さんがノーベル医学生理学賞を受賞された時、若者に向けて「教科書を信じるな」とメッセージを送られました。



学校では教科書を使って授業をしているのですから、いきなりその言葉だけ切り取ってみるとびっくりしてしまいますが、本庶さんの言葉を辿^{たど}ってみて、その言葉の真意に納得させられました。本庶さんは、「教科書を鵜呑みにするのではなく、『本当にそうなのか』という視点を大切にしてほしい」と言葉を続けていました。たとえば、昔は「プラスチックは電気を通さない」ものでしたが、今は「電気を通すプラスチック」の存在は周知の事実であるというように常識は変わるということです。

数多くの研究者たちが、毎日研究をしているのですから、その成果により、新たな発見はあるはずです。新しい発見によって、いままで正しいと信じられてきたことが覆されていくこともあるでしょう。これはある意味において、さまざまな競技の世界記録が塗り替えられていくのに似ています。大げさな言い方をすれば、人類は日々進化し続けているのです。世の中に不変のものや、絶対に正しいものなどないのかもしれませんが。

ですから、現在「常識」と考えられていることに対しても、「本当かな？」と考えることは大事です。そういう発想がなければ今までの常識を覆す新しい発見は生まれてこないからです。様々なことに疑問を投げかけることは新しい発見の第一歩といえるでしょう。

皆さんも同じです。「自分はこういう人間だ」と決めつけてはいけません。「運動できない」「勉強できない」「歌がうまく歌えない」など、自分の可能性を自分自身の思い込みで潰していませんか。

たとえば、「英語ができない」今の自分に「本当にそうかな？」と疑ってみて、「英語の勉強を始めてみてはどうでしょう」。単語を一つ覚えることから始めてもいいかもしれません。誰にも気づかれないでしょうが、昨日の自分が知らなかった単語を、今日の自分は覚えることができたとしたら、「昨日の自分」より「今日の自分」は単語一つぶんだけ英語ができるようになったと自信をもってください。それは自分の可能性を広げる第一歩です。私がこんなふうを書くのもたくさんの事例を知っているからです。中学時代は部活にも入らず、運動とは無縁だった女子生徒が、オリンピックでマラソンランナーになった例、中学時代英語の成績がずっと1か2だったのに、英語の通訳になっている人もいます。

皆さんの可能性は無限です。

11月の予定

- 1日（金）貧血・小児生活習慣病予防検診、スタディ・プラス
- 2日（土）文化祭（夜間学級）
- 3日（日）文化の日
- 4日（月）振替休日
- 5日（火）連合音楽会
- 6日（水）心の声、小中連携 小学生体験授業
- 7日（木）スタディ・プラス（1・2年のみ）
- 8日（金）交通安全教室
連合展覧会（始）
- 9日（土）土曜授業 進路学習会（2年）
- 11日（月）学年各種委員会
- 13日（水）後期中間考査（3年のみ技家・音・美）
- 14日（木）後期中間考査（社・国・3年のみ保体）給食なし
- 15日（金）後期中間考査（数・理・英）
- 18日（月）連合展覧会（終）
- 23日（土）勤労感謝の日
- 24日（日）ESAT-J（3年）
- 25日（月）全校朝礼
- 26日（火）スタディ・プラス
- 29日（金）鎌倉校外学習（2年）



学芸発表会を終えて～感動をありがとう～

10月18日、19日の学芸発表会の1日目は各学年、行事等の報告・発表が行われました。どの学年もクラス、学年の発表会と各予選を経て選ばれただけのことはあって、素晴らしい発表でした。同じ内容であっても、発表の仕方によってインパクトがずいぶん変わるものだと感心させられました。



英語スピーチの堂々とした発表態度やディベート部の白熱した討論、空手部の形、吹奏楽部の演奏も工夫があって、新鮮な発見と感動がありました。

2日目の合唱は学年が上がるごとに、歌声に気持ちが込められていて、どのクラスも圧巻の仕上がりでした。聴いていて心が震える感動を味わうことができました。

保護者の方々の見学スペースは狭く、皆様には窮屈な思いをさせてしまい、申し訳ありませんでした。その中でもお互い譲り合ってご参観いただき、感謝申し上げます。